

令和4年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：認知症に対する訓練の取り組みについて

【日 時】 令和4年1月12日（水） 18時30分 ～ 19時30分
【出席者】 ○篠崎市長 ○（参加者4名） 総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西ヶ丘」代表：新谷 弘昌 総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西ヶ丘」事務局：片山 雅博 総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西ヶ丘」会計：安宗 厚子 西宇部地区民生児童委員協議会 民生委員：前田 秀子 ○市民活動課長 ○厚南市民センター 地域・保健福祉支援チーム 地域支援員 ○事務局（広報広聴課）
【概 要】 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 開催目的説明 5 意見交換・懇談閉会 6 閉会
【意見交換・懇談】
○よりあい処西が丘について 【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】 ・平成23年4月にボランティアグループ「よりあい処西が丘」を発足し、「住んでよかった西ヶ丘、住んでみたいな西ヶ丘」をキャッチフレーズに活動を始めた。その後、高齢者総合支援課から認知症を支援するオレンジサポーターの話があり、認知症に関する活動を始めた。さらに、山口県体育協会からのアドバイスで、平成30年には総合型スポーツクラブ活動を始めた。 ・我々はボランティアグループなので、助成金を活用しながらいろいろな活動を行うことができる。
○認知症 SOS 模擬訓練について 【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】 ・平成27年に認知症 SOS 模擬訓練を始めた。去年はできなかったが毎年行っている。 ・認知症 SOS 模擬訓練の前に、認知症の方に出会った時の対応の仕方について、相手の正面に回って前から声をかけること、相手と目線を合わせることなどを学んだ。 ・認知症 SOS 模擬訓練では、西ヶ丘全体に認知症役の人を何人か配置した。西部第1

高齢者総合相談センターにも協力してもらった。

・第8回目の訓練を1月16日に行う。今回のテーマは、認知症になった方の家族の気持ちを知ることだ。認知症の家族を持つ方にお話を聞き、その様子をビデオに撮ったので、このビデオを参加者に見てもらおう。認知症というものを知ってもらい、自分のこととして考えてもらいたい。地域で認知症を理解することが大事だと思う。

○認知症 SOS 模擬訓練の効果について

【市長】

・認知症 SOS 模擬訓練をして、どのような効果があったか教えてほしい。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・認知症の徘徊などは、自分だけで抱え込むのではなく、地域の皆に知ってもらった方が良い。行方不明にならないように見かけたら声をかけてもらう。

・ある認知症の方が徘徊して他人の家に入ってしまったが、入られた家の人は、この方が認知症だということを知っており、訓練どおりの声掛けと関係施設への連絡を行い、本人を探していた家族にも連絡することができた。同じような事例が他にもある。認知症の方への適切な声掛け、対応を行うことができたのは訓練の成果だと思う。

【西宇部地区民生児童委員協議会 民生委員】

・必死に早足で歩く人に出会った。おかしいなと思い呼び止めたら、「東岐波の実家に行くんです」と言うのでやはりおかしいと思い、急いでその方の家族に連絡して事なきを得た。訓練をしていたので、おかしいことに気づいて声掛けができたと思う。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・認知症 SOS 模擬訓練を受けていると、認知症に対して敏感になると思う。認知症 SOS 模擬訓練でいろいろなパターンを経験することで、その場に応じた対応が迷わずできるようになる。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」会計】

・私はよく歩いて人と話をする。先日歩いている時に坂から人が下りてきたので、「どこに行くんですか」と声を掛けたところ、その方が「わからない」と答えた。その地区の民生委員は留守だったので、前の民生委員に電話して来てもらい、その方を家に送り届けた。認知症 SOS 模擬訓練をしていたので声掛けができたのかなと思う。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」事務局】

・認知症 SOS 模擬訓練、認知症サポーター養成講座に参加しているが、実際に声をかけたことはまだない。なかなか声をかけるきっかけが難しい。声をかけようという気持ちを持つだけでもいいのかなと思う。

【市長】

・自分も声掛けをしたことがあるが、声をかけてもよいのか分からないことも多くあった。声掛けをするのは勇気が要ると思う。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・自分は町内で役をしているので地元では声掛けができるが、他の地域で声掛けをする

のは度胸が要る。何回も訓練で声をかけることで、実際の声掛けができるようになると思う。

【市長】

・声掛けは認知症だけでなく、今の社会情勢の中でいろいろな問題を抱えている子どもたちに対してもできる。社会の問題が多様化する中で、そういうことができる地域が必要になってくる。

○認知症 SOS 模擬訓練を市全体に広めることについて

【市長】

・認知症 SOS 模擬訓練を他地区に広めるにあたって、講師やプログラムが必要か。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・自分たちは、市や西部第1高齢者総合相談センターなどに手伝ってもらいながら、手探りで訓練をやっている。

・2～3年前、訓練としてVRを使った認知症の疑似体験を行った。認知症の人の見え方は本人でないとわからないが、疑似体験すると認知症に対する考え方も変わってくる。ただし、VRは高額で市で予算は取れていない。

・認知症 SOS 模擬訓練は、市全体で取り組んでいくことが大切だと思う。今年は船木地区でも認知症 SOS 模擬訓練を実施したと聞いているが、まだ市全体に広まっていない感じがする。

・講義などを行うと、認知症は身近な問題だという認識が生まれると思う。

・これまでは西が丘自治会館で認知症 SOS 模擬訓練を行っていたが、認知症 SOS 模擬訓練を広めるために今年はふれあいセンターで行う。

・中高校生にも認知症 SOS 模擬訓練に参加してもらっており、先生から「子どもたちがいい経験になったと言っている」と聞いた。子どもたちが訓練に参加することも大事だと思う。

【市長】

・市ではチームオレンジという認知症の方を支える体制をつくっているが、実際に認知症の方が行方不明になった時にどうするのか、認知症の方を地域でどう見守っていくのかというところは、まだまだできていない。

・子どもたちにも地域の中で役割を持ってもらうことが大切だと思う。このことは教育的な意味もあり、コミュニティスクールという形で地域と学校が連携することで子どもたちを巻き込んでいく。子どもたちは通学でいろんなところを歩いて見ているので、見守りの可能性を広げるのではないかとお話を聞きながら考えていた。

・実際に認知症の方の対応をするときに、自治会の役員の方はどこに連絡すればよいかわかるが、自治会活動に参加していなかったらどこに連絡すればよいかわからないこともあるのではないかと。

・認知症の方が行方不明になった事例があり、家族が警察に連絡し、警察から市に情報提供があった。市ではLINEやうべメールサービスで情報を発信するなどの対応をした

が、行方不明者が見つからない場合は、もっといろいろな人の目で検索しなければいけない。こういった認知症 SOS 模擬訓練を受けた人の目が沢山あったらいいと思う。

・認知症 SOS 模擬訓練を市全体に広げていきたい。西ヶ丘は先進地として、こういったところに気を付けたらよいかなどについて、オンラインを活用して各地区と共有してほしい。声掛けのようなリアルな研修も必要だが、まずは声掛けの仕方などの知識をぜひ市内で共有してほしい。

・行政の情報発信で一番の課題は、伝えるだけではなく、伝わる情報発信をすることである。チラシを配布するなどの PR ではなかなか伝わらない。伝わるようにするためには、地域コミュニティや民生委員の皆さんにお願いしていくことが大事だと思う。

○地域での見守り、お互いの顔が見える地域づくりについて

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・子どもは大人より敏感な部分があり、いろんなところを見ている。認知症の方が行方不明になったときに、子どもが「あそこにいたよ」と教えてくれることがあった。子どもが何かを見つけたときに、大人に知らせる方法を考えてみてはどうか。

・まずは関係の深い地区に情報を流す。他の地区の情報にはあまり関心を持たない。

・地域の日中在宅者に行方不明者の情報を流して、協力してもらうのもよいと思う。日中在宅者は時間的に余裕がある人が多く、西ヶ丘でも日中在宅者の協力で行方不明者を発見した事例がある。

【市長】

・頼めばやってくれる方は多くいると思うが、個人情報の壁や家族の意向もある。非常事態の時は、配慮をしながら情報を提供して、協力をお願いすることも必要なのではないかと思う。

【西宇部地区民生児童委員協議会 民生委員】

・私の実家の地域は、皆が親しく親戚のような付き合いをしていた。20年前に母が夜間に無断で外出してしまった。当時はまだ認知症という言葉もなく事態が把握できず、どこに行ったかも分からなかったが、母は母の実家に行っていた。母の実家の隣に住んでいた方が、母を見つけて連れて来てくれた。母のことを地域に知ってもらい、地域の皆で情報を共有したおかげで、母は最期まで自宅で過ごすことができた。

・西ヶ丘では、よりあい処西が丘の代表がお互いの顔が見える自治会を目指して頑張っているので、お互いの顔が見える地域の実現まであともう一歩かなと思っている。

【市長】

・あと一歩踏み込めれば、世の中はもっと良くなると思う。認知症による事故などについても、周りの人がちょっと見ていれば未然に防げることも沢山ある。認知症 SOS 模擬訓練をもっと進めていかなければならない。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」事務局】

・顔が見えるという点では西ヶ丘は進んでいる。顔が見えると、皆が協力し合うという形が作りやすい。

・顔見知りになったり、地域の協力体制を作ったりするのに、ふれあいマップづくりが役立つと思う。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・市社会福祉協議会から「困っている人のためのマップづくりをしませんか」と声掛けがあり、ふれあいマップづくりを始めた。西ヶ丘を何カ所かに分けてマップをつくっている。まだマップは完全ではないが、世帯人数、関わっている人がいるかどうかを確認し、関わっている人がいない場合は民生委員や支援チーム・隣の人をお願いしてはどうかといったことを話し合った。今後は、関わっている人がいない方にどのような支援ができるのかを検討しようと思っている。

・地域のコミュニティを再生する必要がある。そのためには、まず顔が見える地域づくりが大事なので、自治会の祭りなどの人が集う取り組みを行っている。

【市長】

・どの地域も地域活動の担い手不足で困っている。市でも新年度から地域活動に出やすい仕組みを準備している。もう一度地域を立てなおしていかなければならない。

○困っている方への情報提供について

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」会計】

・私は、母を介護した経験からいろいろなことを学んだ。下り坂で母の車いすを押す時に、私は前向きで進んでいたが、施設の方は後ろ向きで坂を下っていた。自分の押し方は危なかったと気が付いた。

・認知症の介護で困っている方がいたら、支援チームや西部第1高齢者総合相談センターなど、相談できる場所の情報提供をしている。

・喫茶などのよりあい処西ヶ丘の活動は自治会の行事ではないので、西ヶ丘に住んでいる方でなくても声をかけている。自分の住んでいる自治会に関係なく、誰でも参加できるのは良いことだと思っている。

【市長】

・自分も祖母が認知症になった時に、どうすれば良いのか情報がなくて困ったことがあった。伝わる情報発信をしなければいけない。

・市で認知症お助けガイドを作って、困ったときの相談先などを案内している。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・それはいつできたものか。地域には届いてないと思う。

【市長】

・令和3年7月に作成した。皆さんのところに届くようにすぐに対応させる。ガイドを作っても使われなければ意味がない。

・高齢化社会が進展してある程度の仕組みはできているが、その仕組みが機能する、使われるように改善していかなければいけない。ぜひ皆さんにも引き続き周囲への情報提供をお願いしたい。

・他地区の方が相談しやすいということもあると思う。友達がいるところなど、地域で

縛らずに相談しやすいところに行けるのは良いと思う。

○先進事例や講演について

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」会計】

- ・NHKの番組で「認知症とともに生きるまち大賞」を受賞した町の特集をしていた。子どもたちも集まって地域の人と認知症の方が交流したり、認知症の方と一緒に野菜をつくって収穫したりする取り組みを紹介していた。
- ・全国を巡回して講演をしている若年性認知症の方がいらっしゃる。
- ・宇部市でも認知症の方の話聞く機会があればいいと思う。ビデオなどがあれば地域の人に見てもらえる。

【市長】

- ・国も農福連携に取り組んでいる。宇部市でも参考にしたい。
- ・市民や医療機関などを横断的につなぐネットワークがあれば、先進事例を教えてもらったり、講演をしてもらったりすることができるのではないかと。宇部市には山口大学医学部があるので、市民を巻き込んだ良い形のネットワークができないか検討したい。

○デジタルツールの活用について

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」会計】

- ・昨年、オンラインで認知症 SOS 模擬訓練を開催したら、普段参加しない人が参加してくれた。認知症 SOS 模擬訓練を広めるのに、オンラインはいい方法だと思う。

【市長】

- ・オンライン会議用のサイネージやタブレットを各ふれあいセンターに配っているが、使い方がわからないという声も多かったので、使い方をサポートする講座を開催している。
- ・デジタルツールはあくまで道具であって、その道具を使って何をするのかという内容の方が大事だ。皆さんの取り組みはありがたい。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

- ・昨年、オンラインで認知症 SOS 模擬訓練を開催した際は、宇部商業高校の JRC 部（ボランティアグループ）にも参加してもらった。タブレットやパソコンがあれば誰でも参加できる。来年はもっとデジタルツールを取り入れていきたい。

【市長】

- ・市民の皆さんが新しい技術を使いやすくなるように環境を整えていきたい。

○ボランティアグループについて

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」会計】

- ・各地区でボランティアグループをつくってはどうか。ボランティアグループの方がいろんなことがやりやすい。
- ・コロナ禍でいろいろな施設が閉まっていたが、よりあい処西ヶ丘が開いていてよかつ

たという声も多かった。喫茶や運動など、結構楽しんでいただけた。コロナ禍でも頑張
って開けた甲斐があった。

【総合型地域スポーツクラブ「よりあい処西が丘」代表】

・地区コミュニティにはいろんな団体があるが、イベントをやるときに声をかけるとボ
ランティアで手伝ってくれる部署を作ると良いのではないか。他団体などの応援にも行
きやすくなる。

【市長】

・良いアイデアだ。そういう部署が各地区にあればとてもいいと思う。恩田地区にはそ
ういった団体があり、いろんなイベントに手伝いに行っている。

【市長】

・本日は具体的なアイデアを沢山いただいた。少子高齢化社会の中で、もう一度地域で
助け合うことを見つめ直さなければいけない時期に来ていると感じた。すぐできるも
の、長期的に各地区の協力をいただかないとできないものがあるが、すぐできるものは
しっかり進めていきたい。

・他地区で認知症 SOS 模擬訓練を行う時は、先進地である西ヶ丘の皆さんのご意見を
聞かせてもらいたい。認知症の方への実際の対応事例を話していただけると、きっと各
地区の皆さんの心に残ると思う。1つでも悲しい事件を減らせるような体制を作ってい
きたいので、引き続き協力をお願いしたい。